

# うない通信

国立大学法人琉球大学 うない研究者支援センター ニュースレター vol.1 2013年1月発行

## センター長からのメッセージ

喜納 育江

(琉球大学 国際沖縄研究所 教授)



琉球大学は、平成24年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受けて、平成24年11月、男女共同参画室（男女参画室委員会）の下に「琉球大学うない研究者支援センター」を設置しました。本センターは、ジェンダーに関する社会的通念や偏見をなくし、本学の女性研究者がその能力を最大限に発揮できるように職場環境を改善すると共に、仕事と家庭生活の両立を支援する研究環境の整備を行うことを最大のミッションとしています。世界的に見ても日本の大学はジェンダーや男女共同参画に対する意識や実践においてかなり立ち後れているのが実情であり、琉球大学も決して例外ではありません。

「うない」とは、「姉妹」を意味する沖縄の言葉ですが、琉球大学男女共同参画室では、「うない」が、現代の沖縄では、「女性たち」、あるいは女性たちの主体的な結びつきや支え合いという意味を込めて様々な用いられているという点に鑑み、お互いに助け合い、職業生活と家庭生活を両立させていく女性研究者のイメージをこの言葉に託し、女性研究者支援センターの名称を「うない研究者支援センター」としました。「うない」の精神にもとづく協働や連携のしくみを構築し、その輪を広げていくことにより、本センターにおける実践が、琉球大学や地域社会のみならずグローバルな社会をも啓発していけるように取り組んでいきます。

皆様におかれましても、どのようにすれば本学がこうしたミッションを果たせるのか、忌憚のないご意見やご提案をお聞かせください。また本センターは、研究者が女性として直面する問題への対処や、男女共同参画の理念に沿った本学の研究環境の改善に積極的に協力いたします。些細なことと思わずに、ぜひ一度ご相談ください。

## 琉球大学男女共同参画宣言

琉球大学は、自由・平等・寛容・平和という本学の建学の精神にもとづいて、基本的人権を尊重し、人種、信条、性別、国籍、障がい等による差別をせず、すべての構成員がその個性と能力を発揮しうるよう、教育・研究・労働環境の整備を図ることを大学憲章の中でうたっています。

とりわけ性別に関する差別については、1999年成立の男女共同参画社会基本法前文において「男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置付け」とされました。

これは日本国憲法の個人の尊重と法の下での平等に基礎をおくものです。

また多様な文化を育んできた沖縄において、文化の多元性や異なる個性のありようを尊重することは、「地域特性と国際性を併せ持つ個性豊かな大学」を目指す本学の理念の実現にも深くかかわっています。

そこで、本学では、日本国憲法、琉球大学憲章、男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、男女という視点はもとより、性的少数者、外国人や障がい者など社会的に不利益を被りがちな人々の視点も含め、全ての人々の未来へ向けた知の継承と創造、発展に貢献する大学づくりを積極的に推進することを宣言します。

(平成23年2月22日 琉球大学)



うない研究者支援センターは、女性研究者の支援を第一歩とし、ジェンダーや国籍を問わず、琉球大学の全教職員や学生がワーク・ライフ・バランスをとることのできる社会づくりを目指します。



## 琉球大学における男女共同参画推進への取り組み

平成 22 年度

男女共同参画室設置

「琉球大学男女共同参画宣言」

「男女共同参画宣言及び基本方針」策定



平成 23 年度

「琉球大学における男女共同参画推進について  
～アクションプラン～」策定

平成 24 年度

「琉球大学第 3 期一般事業主行動計画  
(H24 年度～H26 年度)」策定  
「女性研究者の積極的採用のための  
ポジティブアクションプログラム」策定

平成 24 年度科学技術人材育成費補助事業  
「女性研究者研究活動支援事業」採択  
うない研究者支援センター、相談室 設置

## うない研究者支援センターの5つの取り組み

うない研究者支援センターは、女性研究者の支援を第一歩とし、ジェンダーや国籍を問わず、琉球大学の全教職員や学生がワーク・ライフ・バランスをとることのできる社会づくりを目指します。

### 支援・相談体制

・女性研究者の職業と家庭生活の両立に関わる相談・支援窓口の設置

### メンター制度

・若手女性研究科のキャリア形成及び継続についての相談に助言するメンターを配置

### 研究補助員 配置制度

・出産・育児又は介護等に携わる研究者に対し、研究補助員を配置  
・研究補助員の主な業務：実験補助、研究データ解析、統計処理等

### ゆいネットワーク

・研究補助員や育児休業の代替教員を登録し、ライフイベント時に  
対応できるように研究者を支援する

### 柔軟な勤務体制

・裁量労働制の導入  
・育児短時間勤務制度の積極的利用

### 在宅勤務の システム構築

・ライフイベント時に、ITを利用した在宅勤務システムの構築

### 男女共同参画 意識の啓発

・ワーク・ライフ・バランス支援ガイドブックを作成  
・啓発セミナーなどの開催  
・男女共同参画に関するスローガンの広報

### 広報の強化

・ホームページの整備  
・オープンキャンパス：女性研究者による自然科学系分野の紹介

### 女性研究者 積極的採用のための ポジティブ・アクション

・教員公募における「男女共同参画推進」の記載  
・インセンティブ経費の配分

## うない研究者支援センター メンバー紹介



喜納 育江 センター長 国際中縄研究所 教授

小西 照子 副センター長 農学部 准教授

中島 裕美子 兼務教員 熱帯生物圏研究センター 准教授

高橋 そよ コーディネーター

金城 真紀 事務補佐員

上原 比呂美 総務部人事課 課長代理(労務管理)

親盛 安紀子 総務部人事課 職員係

## 男女共同参画支援体制図





# 琉球大学における女性研究者の比率と目標値

## 国立大学における女性研究者の比率

平成23年5月1日現在、国立大学における女性研究者の平均比率は13.0%で、琉球大学はほぼ同数の13.1%を占めています。

国立大学協会の調べによると、女性研究者の占める割合の多い大学順にみた場合、86ある国立大学のうち、琉球大学は55位となっています。



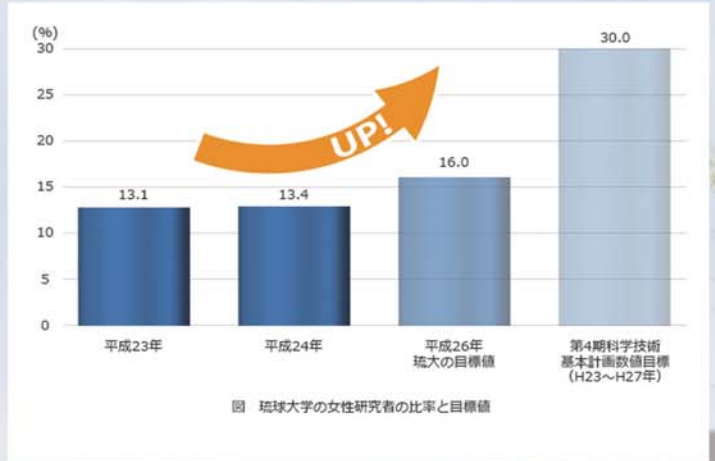
科学技術基本法に基づき策定された第4期科学技術基本計画（平成23年8月19日閣議決定）の中で、「女性研究者の活動の促進」の方策として、女性研究者の比率が理学系20%、工学系15%、農学系30%となるよう目標数値が設定され、早期達成が推進されています。

しかし、琉球大学の学部・学科別女性研究者比率は、工学部1.0%、農学部3.1%、理学部6.1%であり、特に理系分野における女性研究者の占める割合が低いといえます。



## 琉球大学の女性研究者比率と目標値

このような現状を改善するため、琉球大学は、平成26年までに女性研究者の在職比率を16%に上昇させること、新規採用増を目標としています。



### 研究補助員配置制度について

本学では、平成24年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の一環として、平成24年11月より、出産・育児または介護等に携わる研究者に対し、研究時間を確保し、研究活動の活性化を促進するために、研究補助員を配置する「研究補助員配置制度」を実施しています。申請対象は、本学に在職する女性研究者または配偶者が研究者である男性研究者で、(1) 妊娠中の方、または配偶者（研究者に限る）が妊娠中の方、(2) 小学校6年生までの子を養育している方、(3) 家族（配偶者・父・母・兄弟・子等）に要介護者、または要看護者がいる方のいずれかに該当する方です。なお、研究者とは、本学に在職する専任教員、特命教員、特命研究員及び（独）日本学術振興会特別研究員（PD）を示します。平成25年1月現在、15の方がこの制度を利用されています。本制度を利用されたい方は、琉球大学うない研究者支援センターまでお問い合わせください。

（内線8675、担当者 高橋）

次ページで研究補助員配置制度を利用されている研究者の方の声を紹介します。



## うない研究者支援センターへの期待

琉球大学工学部 小野尋子 (助教)

### ワーク・ライフ・バランスは選べるのか

ワーク・ライフ・バランスの自己決定権を持ち得るということは、現代の社会の中では非常に恵まれた状況にあるといえるでしょう。主にこれらを生きてとの両立に限ってみても、まず、「子供が心身ともに健康である」これは第一に欠かせません。通院や入院の付き添い、療育、家庭学習等が必要な場合、ワーク・ライフ・バランスの調整ははるかに至難です。そして職場環境においても、「雇用形態が安定しており、育児休暇や看護休暇が利用できる」「職場の関係が協力的である」と最低限これだけの条件が必要ですし、加えて言えば、「またそれらを利用して人事や給与において暗黙裏にも不利にならない」という点までなければ、十分とは言えません。さらに、「家族が協力できる」「保育所や学童が利用可能である」「病氣時に手助けしてくれる親戚や知人がいる」というプライベート面での協体制度をどう築くかも課題です。

上記のような多くの点を運良くクリアした際でも、「ライフ」のバランスを重視することを選ぶことができるかは非常に難しいと言えるでしょう。特に研究者は、もともと定時に退社かつ土日祝日を休む形での労働量以上の業務量を遂行しており、そのようにして確保された研究時間をベースとした研究成果によって、公募の人事が進められるからです。研究としてここまでの成果を上げるべきという課題の設定と、家族としてここまでは子供と向き合うべきという設定を、子供の年齢(長期)、子供の心理や体調(短期)、家族の状況、そして自身の研究状況に合わせて常に組み直し、調整することが求められます。時々によってライフを外注するか、ワークを外注するかを選択と調整を求められますが、補助員などの存在は、利用の柔軟性が増せば非常に効果的だと考えます。

### 硬直的な仕組みを改善する調整機関としての期待

補助員制度は非常にありがたく思います。制度が継続的に実施され、広く知られることにより、計画的に利用できるようになると思います。一方、制度としては、研究者の生活が、夜や土日祝日の研究遂行を伴うものであるにもかかわらず、補助員の雇用時間が対応しないことや、雇用できる補助員が大学院生以上に限られていることが使いにくいと思います。特に理系の研究では、24時間計測や日の出から日没までの計測等があります。こうした実験の実施において、研究室の大学院生は非常に有力な補助者ですが、硬直的な制度運用によって早朝や夜間の利用できない、換言すれば、保育所の開所時間とほぼ重なる平日8:30から17時までの間でしか雇用できないのでは、育児期にあ

る研究者の支援としては片手落ちです。また、研究補助でも単純なデータ入力などは学部生にも出来る仕事ですので、学部学生を雇用できれば、大学院生のいない研究室の研究者でも利用が可能となり、総体として研究支援の裾野が広がりますし、利用者が増えるのではと思います。

また、研究支援を考える場合、もう少し研究者の業務を類型化して捉える視点も必要かと思えます。大学教員の場合の業務は「教育」「研究」「会議」「事務・雑務」に大別されます。現在の研究補助員制度は、前述の類型では「研究」部門でしか雇用できません。ですが、研究者としては、「研究」が一番自分自身で行いたい、また行うべき業務ではないでしょうか。例えば、学科に来た学生向けの就職求人票の処理(整理・掲示・案内)、学内委員会の細々とした仕事(学生や職員アンケートの入力等)は、大学運営上必要な業務ですが、本務である「研究」の時間がほとんど取れない中で研究者本人が行うべきことなのか疑問が残ります。講義の資料のコピーをするたった30分の余裕、学内アンケート結果を打ち込む3時間の作業枠が、保育園の開所時間内に仕事を終えなければならない日には取れないことがあるのです。東京工業大学では学内制度で類似する制度があり、「研究」補助員だけでなく、教員の「事務」補助員として学部学生を雇用できます。こうした制度の方がより実質的かつ本質的に「研究者本人が研究するための支援」につながるかと思えます。

うない研究者支援センターには、制度上できるかできないかの判断をするだけの機関としてではなく、現場から寄せられた「声」をもとに制度改善や補助金の仕組みの改善につながるよう、現場との接点として、研究者支援の立場からでしか集約できない個々の研究者の実態を根拠として、自立的に国への申請や組織内外の制度改革の要請の声を上げていってもらえるような機関になることを期待します。

略歴 社会工学博士 (筑波大学 2003)

2002年4月~2003年7月 川崎市役所 総合政策課題専門調査員

2003年8月 琉球大学 工学部 環境建設工学科 環境計画学講座 助手

2007年4月 琉球大学 工学部 環境建設工学科 環境計画学講座 助教 現在に至る



学生とのミーティング:

朝8時に作業方針ミーティング、同日20時半に結果ミーティング。保育園の迎え、夕食、お風呂、寝かしつけを誰に頼むかが必要になる。(2012年9月)

深夜早朝まで及ぶ作業:

早朝3時半。出張前で業務が押すと深夜早朝に及ぶことがあり、こうした時も子供を誰に頼むかの調整が必要(2012年9月)



2012年11月大学近くのレストランにて夫と:

(年に一度あるかないかですが)家事育児を共にするパートナーとのコミュニケーションは大切

## 仲間が二人ふえたよ！

### —研究補助員制度を利用して—

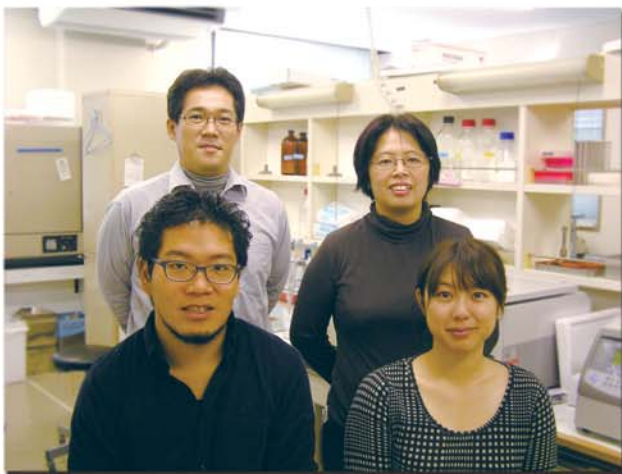
琉球大学大学院 医学研究科 分子解剖学講座  
清水 千草（特命助教）・岡部 明仁（准教授〈学内〉）

#### 1. 研究補助員制度バンザイ！！研究補助員が二人も

私達は、本学分子解剖学講座で、脳神経における神経伝達物質 GABA について研究をしています。GABA は、最近チョコレートなどにも入っているものですが、脳の中では、ブレーキの役割を果たす抑制性神経伝達物質として働いていると言われていました。しかし、最近、細胞内のイオン環境により、逆にアクセルの役割をする興奮性の作用をもつことがわかってきました。このような二面性をもつ GABA の働きと機能を日夜研究しています。

所属している分子解剖学講座という講座名が示すように、医学教育の上で”解剖”は、実習や講義に最も時間をかける科目の一つです。そのため、研究時間が少なくなりがちであります。しかし、あと30分あれば、実験が終わるのに。。。という時でも、二人の子供（小学1年、2歳）の保育園や学童保育のお迎えの時間は刻々と迫ってきます。そのような状況の中で、私達にとって、本制度を利用できたことは大変うれしいことでした。

女性研究者支援・研究補助員制度では、子供が6年生までの女性研究者だけでなく、女性研究者を配偶者にもつ男性研究者というのが支援の対象になっていることから、清水・岡部1人ずつ計2人も研究補助員をつけていただくことができました。この制度では、研究補助員として修士課程以上の学生あるいは卒業生を雇用することができます。そこで、宮崎悠君（理学部・博士課程2年）と小林しおりさん（理学部・博士課程3年）をお願いすることになりました。



#### 2. すご腕の研究補助員

宮崎君は、理学部でサンゴの遺伝学的解析を研究しています。遺伝子操作に精通していることから、新しいプロジェクトを始めることにしました。特定の分子が脳内のどこにあるかを調べるためには、その分子に対する抗体が必要です。マウスの脳内より特定の遺伝子を取り、その蛋白質を発現させ、動物に注射して、抗体を作らなくてはなりません。しかし、一からやるには一苦労です。「この遺伝子の蛋白質を作りたいんだけど・・・」という、宮崎君は、遺伝子配列をさっとインターネットから取ってきて、遺伝子解析ソフトをダウンロードして、ぱっと解析してくれました。さすがの一言です。

小林さんは、理学部でイカ神経系の形態学的解析をしています。彼女は、もともと当講座の共同研究者でした。これまでに、何度か研究室に来て実験しており、熱心な学生さんだと思っておりました。形態学を専門にしていることから、「これ組織切片作ってくれますか？」と、組織片を渡すと、きれいに染色された切片となって戻ってきました。さすがです。また、小林さんは、研究室で自身の研究テーマについて1時間以上にわたり発表をしてくれました。多くの質問が出て、活発な議論が交わされました。他の大学院生にとっても、良い刺激になったと思います。

このように、宮崎君、小林さんには、まだほんの数ヶ月ですが、とてもお世話になり、感謝しております。この制度を利用することは、私達の研究が進んだり、研究と育児との両立が楽になることではありません。若い人が2人も増えて、研究室が活気づきました。また、いつもの研究とは異なった領域にふれることでお互いに学ぶこともできました。

既に彼らは、“研究補助員”というよりは一緒に研究をする仲間という感じです。今後も楽しく研究を続けていければと思います。

#### 略歴

清水 千草

博士（バイオサイエンス・奈良先端科学技術大学院大学、2001年）。2001年奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科博士後期課程修了。浜松医科大学医学部日本学術振興会特別研究員 PD（2001年～2004年）、Max-Planck 研究所(ドイツ)ポスドク（2004年～2005年）、徳島文理大学香川薬学部助教（2005年～2012年）を経て、現在は本学分子解剖学講座、特命助教。

岡部 明仁

博士（バイオサイエンス・奈良先端科学技術大学院大学、2001年）。1999年奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科博士後期課程単位取得退学。浜松医科大学医学部助教（1999年～2006年）、マインツ大学(ドイツ)ポスドク（2004年～2006年）、兵庫医科大学講師（2006年～2012年）を経て、現在は本学分子解剖学講座、准教授（学内）。



冬です、子供が発熱！でも、仕事を休めない！そんなときは・・・、備えあれば憂いなし！



## ご存知ですか、病児・病後児保育施設

下記の施設では、病気の回復期であっても集団保育が困難な児童を対象に、保護者の勤務や疾病等により家庭での育児ができない場合、看護師・保育士が一時的に保育を行っています。これらの施設を利用する際には、病後児保育事業登録申請書による登録が必要な場合やお住まい等によって利用料金が異なる場合があります。事前に、ご利用される病院や市町村役場福祉課にお問い合わせください。

施設名	住所	電話	病児保育利用料金(診療費、薬代別)
安謝小児クリニック こどもデイケアセンター	〒900-0003 那覇市 安謝215-1	098-869-0600	市内在住者 ¥2,000 (一日) 市外在住者 ¥2,500 (一日)
こくらクリニック小児健康支援センター	〒900-0024 那覇市 古波蔵3-8-28	098-855-1020	市内在住者 ¥1,300 (4時間未満)、¥2,000 (一日) 市外在住者 ¥1,575 (4時間未満)、¥2,625 (一日)
那覇市母子生活支援センター さくら	〒903-0805 那覇市 首里鳥堀町4-99	098-886-7018	市内在住者 ¥2,000 (一日) 市外在住者 ¥2,500 (一日)
太田小児科医院内 キッズワールド	〒903-0122 西原町 字小橋川164-1 太田小児科医院内	098-946-5081	西原町、与那原町、中城村在住者 ¥2,500 (一日) ¥1,500 (半日) 上記外 ¥6,000 (一日)、¥3,000 (半日)
やびく産婦人科・小児科こどもデイケアセンター	〒904-0111 北谷町 字砂辺306	098-936-6789	市内在住者 ¥2,500 (一日) 市外在住者 ¥3,500
介護療養型老人保健施設海邦	〒901-2134 浦添市 港川2-24-2	098-878-8787	市内在住者 ¥2,500 (1日) 市外在住者 ¥3,500 (1日)
松岡病児保育センター	〒901-0212 豊見城市 字平良215	098-856-1685	市内在住者 ¥2,000 (一日)、¥1,200 (半日) 市外在住者 ¥2,500 (一日)、¥1,700 (半日)
海邦病院小児デイケア室	〒901-2224 宜野湾市 真志喜2-23-5	098-898-2111	市内在住者 ¥2,500 (1日) 市外在住者 ¥3,500 (1日)
中部徳州会病院小児健康支援センター	〒904-0011 沖縄市 照屋3-20-1 中部徳州会病院	098-937-1110	¥2,500 (1日)、¥1,500 (半日)
病児保育室くじらキッズ	〒901-0301 糸満市 字阿波根1552-2 かみや母と子のクリニック	098-995-3511	¥2,500 (1日)
くでけん小児科	〒901-0305 糸満市 西崎6-11-8	098-994-2099	¥2,500 (1日)

(2012年12月現在)

### 編集後記

- ◎ ボールペン1本購入するところから始まったセンターの立ち上げ。手探りながらも、うない研究者支援センターは、大学内外の様々な方からのご協力を得ながら、少しずつ支援体制も整ってきました。わくわくするような発見や生き方を沖縄から発信できるよう、女性研究者や女子学生の皆さんを応援していきたいと思えます。相談や要望など、うない研究者支援センターまでお気軽にお寄せください(そ)。
- ◎ 慌しかった日々も、ニュースレターの創刊・Webサイト開設が済み、ひと安心。明日から、頑張ります。(ま)

国立大学法人琉球大学 うない研究者支援センター

University of the Ryukyus

Unai Center for Researcher Support and Development

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 大学本部1階

TEL : 098-895-8675 E-mail : gender@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

FAX : 098-895-8732 URL : <http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/unai/>